ALEX-128/HG
ALEX-128/HG DSU

オンライン
Ver 2

追加機能説明書

本説明書は、ALEX-128/HG シリーズのオンラインVer２用の追加機能説明書です。
別紙の取扱説明書と併せて、ご活用くださいますようお願いします。

2 追加機能概要
3 BOD機能
5 BACP機能
6 データポートの短縮ダイヤル機能
7 INSなりわけサービス対応
7 疑似なりわけ機能
8 プライベートコール
9 TEL発着信履歴機能
11 ダイヤルパルス対応
11 短縮番号でリモート設定
12 転送失敗時のアナウンス
12 フッキング微調整
14 追加･変更ATコマンド一覧
15 追加レジスター覧
16 追加電話操作一覧

データポート追加機能

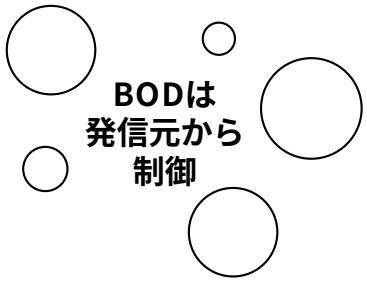
TEL ポート追加機能

BOD 機能

BODとは、Bandwidth On Demand の略です。水質調査等でよく使用される生物化学的酸素要求量(Biochemical Oxygen Demand)のことではありません。

本機能によって、デジタルデータ通信中の状況に応じて128Kbpsと64Kbps（2つの通信チャネル利用と1つの通信チャネル利用）を動的に切り替えることができます。

この機能により、例えばデジタルデータ128kbps通信中に電話の発着信が発生すると自動的に64Kbpsに変更し、電話の通話を可能にします。



BACP 機能

BACPとは、Bandwidth Allocation Control Protocol の略です。

本機能とBOD機能を併用することによって、通信速度の自動切替を行う前に接続先に確認をとることができます。

この機能により、頻繁に通信チャネルの増減が行われる無駄をなくし、効率の良い通信を行うことができます。

また128Kbpsを利用するときに、接続先から追加される通信チャネルの電話番号を指定することもできますので、空いている異なる２つの電話番号を利用して128Kbps通信を行うこともできます。

データポートの短縮ダイヤル機能

TELポートと同様に、データポートでも短縮ダイヤルが利用できます。

登録できる短縮ダイヤル数は10個です。

「INS なりわけサービス」対応

「INSなりわけサービス」とは、かけてきた相手によって呼出音が変えられるNTTの新サービスです。

あらかじめ、登録した電話番号の相手から、電話があった場合に通常と異なる音で電話のベルを鳴らします。

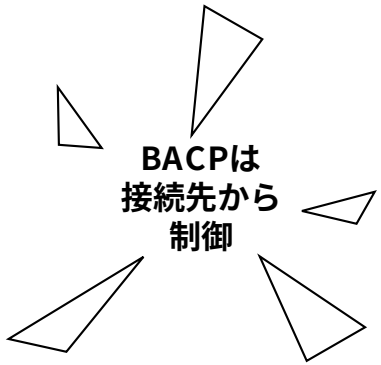
なお、このサービスを利用するにはNTTの契約が必要です。（月額300円　1997/06/04現在）

また、同じくNTT新サービスの「INSボイスワープセレクト」にも対応しております。

疑似なりわけ機能

電話がかかってきた相手の電話番号通知機能を利用して、「INSなりわけサービス」を実現する機能です。

NTTの契約は必要ありません。



プライベートコール

電話がかかってきた相手の電話番号通知機能を利用して、登録した電話番号の相手から電話があった場合、特定のTELポートのみ呼び出す機能です。

TEL 発着信履歴機能

利用した電話の記録を残すことができる機能です。

本機能を利用して、履歴に残っている相手にワンタッチで電話をかけたり、短縮ダイヤルに登録することができます。

ダイヤルパルス対応

黒電話などダイヤルパルス方式の電話機も利用できます。

短縮ダイヤルでリモート設定

外出先から、PHS（サブアドレスの利用できる）などを利用して着信転送先を変更するときに、短縮番号の指定もできます。

転送失敗時のアナウンス

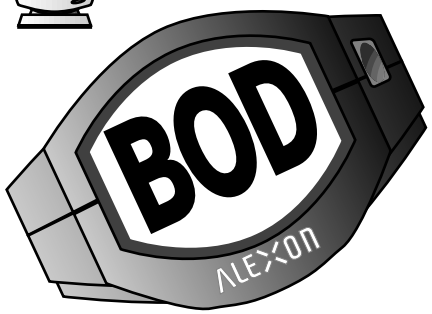
転送/中継に失敗したときにアナウンス/切断音を聞かせるなどの制御ができます。

フッキング微調整

フッキング/オンフック時間の微調整が出来ます。

アナログ新機能設定表示

TELポートの機能追加に伴い、設定表示コマンドを追加しました。



BOD 機能

２つの通信チャネルを使用した128Kbps通信(MP)を行っているときに、データ通信量の大小やTELポートに接続した電話などの使用の有無により、デジタルデータ通信で使用する通信チャネル(以下Bチャネルと呼ぶ)数を自動的に切り替える機能です。この機能により、自動的に128Kbps/64Kbpsの通信速度の切替えが通信中にできます。

データの通信量によって通信チャネル数を切り替える機能を「ThroughputBOD」、電話機などの接続アナログ機器の使用の有無によって通信チャネル数を切り替える機能を「ResourceBOD」と呼びます。

初期設定
MP発信時、Bチャネル２本(128Kbps)接続。
電話などTELポート使用時によるチャネル増減あり。
回線使用率によるチャネル増減なし。

ThroughputBOD 設定レジスタ

レジスタ	説明
C52	**MP発信時の接続Bch数の設定** 書式:ATC52=n ↵ n=0　最初に１つのBチャネル(64Kbps)だけで接続します。 n=1　最初から２つのBチャネル(128Kbps)で接続します。[**初期値**]
C53	**ThroughputBOD 使用方法の設定** MPによる通信中、自動的にBチャネル数の切替え制御を行うかどうかを設定します。 書式:ATC53=n ↵ n=0　Bチャネルの制御は行わない。[**初期値**] n=1　Bチャネルの制御をします。
C54	**Bチャネルの追加を行う場合の回線利用率(ボーダーライン)** 回線利用率がボーダーライン以上になったとき、Bチャネルを追加します(単位:パーセント)。 書式:ATC54=n ↵ n=0～100 [**初期値 80(%)**]
C55	**Bチャネルの削除を行う場合の回線利用率(ボーダーライン)** 回線利用率がボーダーライン未満になったとき、Bチャネルを削除します(単位:パーセント)。 ただし、回線利用率が0%の場合は削除されません。 書式:ATC55=n ↵ n=0～100 [**初期値 0(%)**]
C56	**Bチャネル数切替え後の最小保持時間** Bチャネル数を切替え後、設定した最小保持時間が経過するまではBチャネル数の切替えを行いません(単位:10秒)。 書式:ATC56=n ↵ n=0～255 [**初期値15(2分30秒)**]

【注意】

●各レジスタを設定後、AT&W(設定値保存)コマンドを実行してください。

●回線利用率は、以下の方法で算出します。

回線利用率(%)=
(10秒間のデータ量(byte)／10秒間の回線利用率100%時のデータ量(byte))×100
以下の値の場合、10秒間の回線利用率を100%とします
回線速度 64Kbpsの場合
8000(byte/sec)×10(sec) ＝ 80000(byte)
回線速度128Kbpsの場合
16000(byte/sec)×10(sec) ＝ 160000(byte)

●Bチャネルを追加するとき

回線利用率がBチャネルの追加するボーダーライン以上の場合、Bチャネルを追加します。
回線利用率　≧　Bチャネルの追加を行うためのボーダーライン(C54)

●Bチャネルを削除するとき

回線利用率がBチャネルの削除するボーダーライン未満の場合、Bチャネルを削除します(「C55　Bチャネルの削除を行う場合の回線利用率(ボーダーライン)」が0のとき、Bチャネルは削除されません)。
回線利用率　＜　Bチャネルの削除を行うためのボーダーライン(C55)

●Bチャネルを追加、削除する回線利用率および、最小保持時間の設定により、Bチャネルの追加、削除が頻繁に発生し、常に2つのBチャネルで通信を行う場合と比較して、逆に通信料金が高くなることがあります。
この場合、Bチャネルを追加、削除する回線利用率および、最小保持時間の設定を調整してください。

Resource BOD 設定レジスタ

レジスタ	説明
C51 設定	MP通信中のアナログ機器使用の MPによる2つのBチャネルを使ったデータ通信中に、電話などのアナログ機器の発信または着信があったとき、データ通信のBチャネルを1本にして、アナログ通信を行うかどうかの設定をします。 書式：ATC51=n ↵ n=0　TELポートからの発着信を禁止します。 n=1　TELポートからの発着信を許可します。[**初期値**]

【注意】

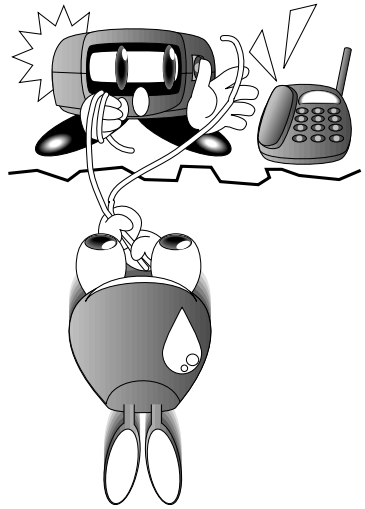
- **レジスタを設定後、AT&W（設定値保存）コマンドを実行してください。**
- **TELポートに着信要求があったとき、TELポートのためにBチャネルを割り当てるには、あらかじめINSネット64で「通信中着信通知サービス」を契約していなければなりません。**
- **TELポートへ着信要求があった場合、TELポートの設定（着信種別、機器種別、ダイヤルイン、サブアドレス）に従って、着信動作を行います。**
- **TELポートへ着信要求があり、着信許可の設定にしている場合、TELポートに接続したアナログ機器の呼出ベルが鳴ります。**
  呼び出しベルが鳴っている間は、データ通信で使用しているBチャネルは2つのままで、アナログ機器をオフフックした（例えば、電話の受話器を上げた）ときBチャネルが1本になり、空いたBチャネルによりアナログ通信を行います。
- **TELポートから発信するとき、相手先の電話番号をダイヤルし、最後のダイヤルを押してからダイヤル完了タイマ経過後（または、ダイヤル終了後#を押した直後に）、データ通信で使用するBチャネルが1本になり、空いたBチャネルによりアナログ通信（通話など）を行います。**
- **アナログ通信が終了したとき、「C53（Throughput BOD 機能使用方法の設定）」の設定によって次のようになります。**

C53＝0（Bチャネルの制御は行わない）のとき
C52（MP発信時の接続回線数）で設定されている回線数で通信を行います。
ただし、C52をBチャネル2本で接続する設定にしていても、プロバイダの状況によってはBチャネルを追加できない場合があります。

C53＝1（Bチャネルの制御を行う）のとき
アナログ通信が終了した後、Bチャネル追加の条件を満たしているとき、Bチャネル2本でMP通信を行います。そうでなければ、1つのBチャネルでMP通信を行います。

- **Resource BOD機能では、疑似フレックスホン（疑似コールウェイティグ等）、コールバックおよび、通信中機器移動は使用できません。**

BODは、状況に応じて切り放し



BACP 機能

BACPとは、MP通信中にBOD機能を使用してBチャネル数を変更するとき、次のことを行うプロトコルです。

●接続先へBチャネル数を変更してもよいかどうかを問い合わせ、接続先から許可されたときに、Bチャネル数を変更します。

●接続先からBチャネル数の変更を要求されたとき、変更を許可するかどうかを接続先へ応答します。

●接続先がBACPに対応した複数の電話番号を持つサーバの場合、異なる電話番号の相手に接続してMP通信ができます。

BACPは、接続時に相手がBACPに対応しているかどうかの確認にのみ使用します。

接続先にBチャネル数の変更を要求したり、接続先からの応答には、BAP(Bandwidth Allocation Protocol)を使用します。

本装置では、自動的にBACPおよび、BAPパケットを生成して相手に送信します。

接続先からBチャネル数の変更要求を受けたとき、本装置の動作は次の通りです。

回線接続要求	コールバック要求	回線	切断要求
C53=0のとき	拒否	拒否	拒否
C53=1で、最小保持時間中	拒否	拒否	拒否
C53=1で、最小保持時間経過後	許可	許可	許可

BACP、BAPには、新旧2種類のプロトコルIDが存在します。

このため、どちらのプロトコルIDを使用するかの設定を、次のレジスタで行います。

BACP 設定レジスタ

レジスタ	説明
C57	**BACP、BAPプロトコルIDの設定** BACPおよび、BAPのプロトコルIDを設定します。 書式：ATC57=n ↵ n=0　旧プロトコルIDを使用します。**[初期値]** n=1　新プロトコルID（RFC2125準拠）を使用します。

BACPは、確認をとって切り放し

データポートの短縮ダイヤル機能

データポートの短縮ダイヤル登録／消去、設定表示および、短縮ダイヤルを使用してデータポートから発信できます。

これに伴った、関連するATコマンドの追加は、以下の通りです。

なお、AT&F（工場出荷値復元）コマンドでデータポートの短縮ダイヤルは消去されます。

ATコマンド　説明

AT&Z　データポート短縮ダイヤルの登録／消去

データポートの短縮ダイヤルを登録します。

なお、電話番号および、サブアドレスを省略すると（AT&Zn=）、短縮\ダイヤルを消去します。

書式：AT&Zn=xxx[*yyy] ↵

n　短縮番号（0～9）
　短縮番号を省略すると、短縮番号0となります。

xxx　電話番号
　（15桁まで登録できます）

yyy　サブアドレス
　（19桁まで登録できます）
　なお、サブアドレスは、省略できます。

例：AT&Z0=1112222 ↵
　短縮番号0に1112222を登録
AT&Z1=3334444*56 ↵
　短縮番号1に3334444*56を登録
AT&Z0= ↵
　短縮番号0を消去

AT&Z?　データポート短縮ダイヤルの設定の表示

ATコマンド　説明

ATD　データポートからの発信

（通信モードは、G1レジスタの設定で決まります）

短縮ダイヤルを使用してデータポートから発信するため、パラメータを追加しました。

書式：ATD[$][/]S=n
　[*サブアドレス]
　[+ユーザデータ] ↵

$　着信課金要求による発信を行います（Dchパケットのみ）

/　メール送信を行います。

S=n　短縮ダイヤル（n=0～9）に登録されている電話番号、サブアドレスへ発信します。

*　サブアドレスを指定して発信する際に、サブアドレスの前に入力します。

+　ユーザデータを指定します。

例：ATDS=0 ↵
　短縮番号0に登録した番号で発信
ATD/S=1+Hello ↵
　短縮番号1に登録した番号へメール送信

【注意】

●短縮ダイヤルにサブアドレスを登録しているにも関わらず、ATDコマンドでサブアドレスを指定した場合、ATDコマンドで指定したサブアドレスで発信します。

（例）

AT&Z0=1112222*123 ↵
短縮番号0へ電話番号＝1112222、サブアドレス＝123を登録

ATDS=0*456 ↵
電話番号　1112222（短縮番号0）、サブアドレス456に発信

「INS なりわけサービス」対応

NTTの付加サービス(有料)である「INSなりわけサービス」に対応しました。

動作として、登録された相手からの呼出のベルは、通常の呼び出しの半分の周期で鳴ります。

また、割込音は通常の割り込み音より長く無音が短くなります。

なお、「INSなりわけサービス」の設定や操作方法などは、NTTに問い合わせください。

【注意】

●片方のポートを呼び出ししている最中は、「なりわけ」の着信を拒否します。

●「なりわけ」によるベルの呼出中は、追加の着信を受け付けません。

●「なりわけサービス」については、電話機の機種や設定によって、電話のベルのなりわけができず、ご利用いただけない場合があります。

設定

ダイヤルイン契約をされ、「INSなりわけサービス」を契約者回線番号で利用する場合には、利用する電話(TELポート)に⑤※[契約した回線電話番号]#と登録してください。

また、ダイヤルイン電話番号で、利用する場合には利用する電話(TELポート)に⑤※[ダイヤルイン番号]#と登録してください。

疑似なりわけ機能

発信者番号通知機能を利用して、どちらかの短縮番号に設定した相手からの着信時、ベル／割込音を「ＩＮＳなりわけサービス」と同じパターンに変えます。

【注意】

●疑似なりわけ機能を使用する場合、短縮番号00～39に、相手番号を市外局番から登録してください。市外局番がないと別番号とみなします。

●疑似なりわけ機能は、各ポートへの着信の識別(ダイヤルイン番号など)より優先度が高いため、片方のポートにだけ短縮番号を登録して疑似なりわけを設定しても設定していないポートに対して短縮番号を登録している相手から着信すると「なりわけ」の呼び出しをします。例としてTEL2だけに疑似なりわけ機能を設定してTEL2の短縮に登録した相手からTEL1へ着信があると「なりわけ」の呼び出しとなります。

●片方のポートを呼び出ししている最中は、「なりわけ」の着信を拒否します。

●「なりわけ」によるベルの呼出中は、追加の着信を受け付けません。

設定

■疑似なりわけをしない[初期値]

1）電話機の受話器を上げ、①※⑤⓪を押します。

2）受話器を戻します。

■疑似なりわけをする

1）電話機の受話器を上げ、①※⑤①を押します。

2）受話器を戻します。

※　電話機の方式の設定は、アナログポート設定ユーティリティ(Ver 2.00)で行うこともできます。

プライベートコール

発信者番号通知機能を利用して、相手番号により着信させるTELポートを限定させる機能です。

同様の機能に「識別着信」がありますが、電話機を２台使用している場合に右図のような相違点があります。

また、プライベートコール機能を使用して着信転送の設定を行った場合、短縮番号00～09に登録している相手から着信したとき、着信転送を行うことができます。

着信転送を設定していないTELポートに着信できない場合は、登録していない相手でも着信転送します。

例：

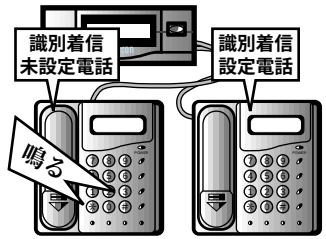
以下の設定で、TEL１の短縮番号00～09に登録した電話番号から番号を通知して着信した場合に「12-345-6789」の電話に転送します。

TEL１の短縮番号00～09に登録した電話番号が番号を通知しなかったり登録外の番号から着信があった場合、TEL１とTEL２を鳴らします。

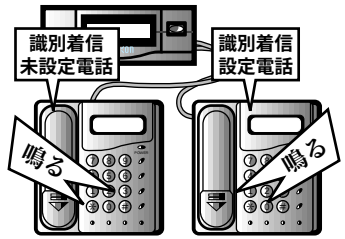
設定項目	TEL１	TEL２
着信転送	２＊１	２＊０
着信転送先	123456789	
着信種別	３＊１	３＊５
ダイヤルイン設定	５＊	５＊
サブアドレス設定	６＊	６＊
優先着信	９＊91	９＊90

識別着信

未登録の相手から電話がかかってきた場合

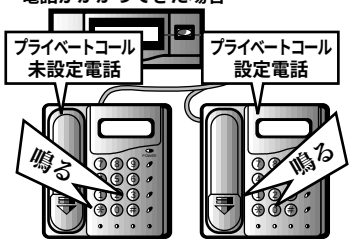


登録の相手から電話がかかってきた場合

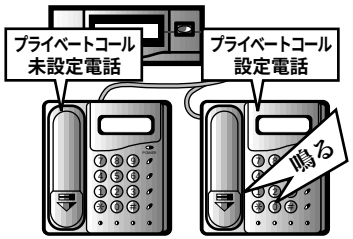


プライベートコール

未登録の相手から電話がかかってきた場合



登録の相手から電話がかかってきた場合



設定

■プライベートコールをしない。[初期値]

１）電話機の受話器を上げ、⑨⊛⑨⓪を押します。

２）受話器を戻します。

■プライベートコールをする。

１）電話機の受話器を上げ、⑨⊛⑨①を押します。

２）受話器を戻します。

※　プライベートコールの設定は、アナログポート設定ユーティリティ Ver 2.00）で行うこともできます。

【注意】

●この機能を使用する場合、使用するTELポートの短縮番号00～09に、相手番号を市外局番から登録してください。市外局番がないと着信しません。

●TEL1、TEL2の短縮番号00～09に同じ相手番号を登録して、TEL1、TEL2の両方でプライベートコールを設定した場合、TEL1のみ呼出ベルが鳴ります。

●指定されたTELポートが通話中の場合、別ポートの呼出ベルは鳴りません。

●グローバルセレクト／ダイヤルイン、サブアドレスおよび、機器種別が設定値と違っていても、指定されたTELポートの呼出ベルが鳴ります。

TEL 発着信履歴機能

TELポートの発着信履歴(相手番号)を記録する機能です。

本機能を利用して以下のことができます。

- **電話機からの操作により、履歴(相手番号)を液晶パネルに表示できます。**
- **液晶パネルに表示している相手番号へ、ワンタッチで電話をかけることができます。**
- **液晶パネルに表示している相手番号を、短縮ダイヤルに登録することができます。**

発着信履歴の設定

発着信履歴には、以下の３種類があります。

なお、発着信履歴の件数は、各種別毎に10件(合計30件)記録することができます(発着信履歴は、TEL1、TEL2別々に記録します)。

10件を越えると古い履歴から削除して追加(上書き)します。

１)発信履歴
発信した場合に記録します。

２)着信履歴
着信して通話した場合に記録します。

３)留守中着信履歴
着信後、応答前に相手側が発信をキャンセルした場合に記録します。

設定

■履歴を記録しない。

１）電話機の受話器を上げ、①※④⓪を押します。

２）受話器を戻します。

■発信履歴のみ記録する。

１）電話機の受話器を上げ、①※④①を押します。

２）受話器を戻します。

■着信履歴のみ記録する。

１）電話機の受話器を上げ、①※④②を押します。

２）受話器を戻します。

■発信履歴、着信履歴ともに記録する。(初期値)

１）電話機の受話器を上げ、①※④③を押します。

２）受話器を戻します。

※発着信履歴の設定は、アナログポート設定ユーティリティ（Ver 2.00）で行うこともできます。

【注意】

- **すでに記録している相手番号は、記録しません。**
- **発着信履歴は、相手の電話番号のみ記録します。サブアドレスは記録しません。**
- **発着信履歴は本装置の電源を切った場合、消去されます。**
- **コールバック要求の着信後、本装置から電話をかけ直す発信の場合、発信履歴は記録しません。また、着信転送、中継および、相手番号通知なしの着信の場合、着信履歴は記録しません。ただし、コールバック要求の着信は、留守中着信として記録します。**

発着信履歴の表示／操作

発着信履歴を液晶パネルに表示することができます。

この機能により、留守中着信履歴を表示させると、留守中に電話をかけてきた相手を確認することができます。

また、発着信履歴を液晶パネルに表示している状態で発信することや短縮ダイヤルに登録することができます。

なお、発着信履歴は約30秒間表示します。

■発信履歴の表示

電話機の受話器を上げ、#1を押します。

■着信履歴の表示

電話機の受話器を上げ、#2を押します。

■留守中着信履歴の表示

電話機の受話器を上げ、#3を押します。

■次の履歴を表示

発着信履歴を液晶パネルに表示しているとき、*を押します。

■液晶パネルに表示中の発着信履歴（電話番号）で発信

発着信履歴を液晶パネルに表示しているとき、#を押します。

■液晶パネルに表示中の発着信履歴を短縮ダイヤルに登録

発着信履歴を液晶パネルに表示しているとき、「nn」#を押します。

登録に成功すると両端の三角矢印が、一瞬点灯します。

短縮番号に40以上の値をダイヤルすると、別TEL ポートの短縮番号に登録します。

※「nn」とは、登録する短縮番号（00～39）です。

例：

TEL1の着信履歴を液晶パネルに表示しているとき、45#を押すと、TEL2の短縮番号05に登録します。

【注意】

●最後の履歴を表示中に*を押すと、1件目の履歴を表示します。

●最新の履歴を表示した場合のみ（1件目に戻った時）、操作完了音が鳴ります。
それ以外は、無音です。

●履歴なし、他のTELポートで履歴表示中および、誤操作時は、ビジートーンが鳴ります。

発着信履歴の消去

電話機から以下の番号をダイヤルすることにより、全ての履歴を削除します。

外出前にクリアすることにより、留守中のみの履歴を取るのに便利です。

電話機の受話器を上げ、#*990を押します。

ダイヤルパルス対応

黒電話などダイヤルパルス式の電話機でも利用できます。

【注意】

●ダイヤルパルス式の電話機では、フレックスホンを含めフッキングを使って操作する機能はご利用できません。

●プッシュ式の電話器しか設定を変更することができません。
ダイヤルパルス式からプッシュ式に変更する場合、電話機をトーン仕様に設定してから上記操作を行ってください(アナログポート設定ユーティリティを使用しても変更できます)。

設定

■プッシュ式[初期値]

1）電話機の受話器を上げ、⑨※⑧⓪を押します。
2）受話器を戻します。

■ダイヤルパルス式

1）電話機の受話器を上げ、⑨※⑧①を押します。
2）受話器を戻します。

※電話機の方式の設定は、アナログポート設定ユーティリティ(Ver 2.00)で行うこともできます。

短縮番号でリモート設定

特定のPHSで発信可能なサブアドレスの桁数が制限されているため、リモート(外出先)から着信転送先番号を変更できない場合があります。

そこで、着信転送先番号に短縮番号を指定できるようにしました。

頻繁にリモート(外出先)から着信転送先番号を変更する場合、入力するサブアドレスが少なくてすむと云うメリットがあります。

【注意】

●この機能を使用する場合、短縮ダイヤルに着信転送先番号をあらかじめ登録しておく必要があります。

●電話機および、アナログポート設定ユーティリティで、着信転送先番号の設定に短縮番号は指定できません。
また、中継機能を使用する場合も短縮番号は指定できません。

例：

今までは、本装置のTEL1の番号が1234-5678、着信転送セット用暗証番号が9876、変更する着信転送先番号が050-999-1111の場合、

①②③④⑤⑥⑦⑧※⑨⑧⑦⑥
⓪⑤⓪⑨⑨⑨①①①①

とダイヤルしていました。

しかし、短縮番号20に変更する着信転送先番号の050-999-1111を登録して、この機能を使用した場合、

①②③④⑤⑥⑦⑧※⑨⑧⑦⑥
②⓪

とダイヤルすると、着信転送先番号が変更できます。

転送失敗時のアナウンス

フリー転送/中継に失敗した時に、音声アナウンスで知らせることがが出来ます。

設定はフリー転送制御にて行います。

HG Ver1では失敗時に発信者に対して切断音を通知していました(フリー転送許可１)が、発信者側の回線を接続して転送失敗時のトーキ(圏外のアナウンスなど)を発信者に通知する(フリー転送許可２)モードを追加しました。

設定

■フリー転送禁止

１）電話機の受話器を上げ、②※⑦⓪を押します。

２）受話器を戻します。

■フリー転送許可１[初期値]

１）電話機の受話器を上げ、②※⑦①を押します。

２）受話器を戻します。

■フリー転送許可２

１）電話機の受話器を上げ、②※⑦②を押します。

２）受話器を戻します。

※フリー転送制御の設定は、アナログポート設定ユーティリティ(Ver 2.00)で行うこともできます。

【注意】

●フリー転送許可２の場合、転送失敗時でも発信者に課金が生じます。

フッキング微調整

以下の項目の微調整が行えます。

・フッキング有効時間

・オンフック認識時間

・フッキング完了時間

なお、これらの機能追加により、フッキング制御の設定を液晶パネルに表示する方法も変更されます。

【注意】

●設定を変更すると接続する電話機が誤動作する可能性がありますので、可能な限り設定を変更しないでください。

フッキング有効時間

フックボタンを押している時間をどのくらいの長さのときにフッキングとみなすか微調整できます。

フックボタンを押す時間が設定した時間より短い場合は、ノイズとみなします。

設定

■設定を変更する

１）電話機の受話器を上げ、⑨※②③「ｎ」を押します。

２）受話器を戻します。

※「ｎ」は、０～９です。**[初期値 １]**

０：約0.03秒　１：約0.1秒　２：約0.2秒

３：約0.3秒　４：約0.4秒　５：約0.5秒

６：約0.6秒　７：約0.7秒　８：約0.8秒

９：約0.9秒

■設定を確認する

１）電話機の受話器を上げ、#⑨※②③を押します。

２）受話器を戻します。

※　フッキング有効時間の設定は、アナログポート設定ユーティリティでは設定できません。

オンフック認識時間

フックボタンを押している時間をどのくらいの長さのときにオンフックとみなすか微調整できます。

フックボタンを押す時間が設定した時間より長い場合にオンフックとみなします。

短い場合は、フッキングとみなします。

設定

■設定を変更する

1）電話機の受話器を上げ、⑨※②④「ｎ」を押します。

2）受話器を戻します。

※ 「ｎ」は、０～９です。[**初期値８**]

０：約0.2秒　１：約0.3秒　２：約0.4秒

３：約0.5秒　４：約0.6秒　５：約0.7秒

６：約0.8秒　７：約0.9秒　８：約１秒

９：約２秒

■設定を確認する

1）電話機の受話器を上げ、#⑨※②④を押します。

2）受話器を戻します。

※ オンフック認識時間の設定は、アナログポート設定ユーティリティでは設定できません。

フッキング完了時間

通話中にフッキングを行った後、フッキング操作が完了するまでの時間を微調整できます。

設定

■設定を変更する

1）電話機の受話器を上げ、⑨※②⑤「ｎ」を押します。

2）受話器を戻します。

※ 「ｎ」は、０～９です。[**初期値３**]

０：約3.5秒　１：約１秒　２：約２秒

３：約３秒　４：約４秒　５：約５秒

６：約６秒　７：約７秒　８：約８秒

９：約９秒

■設定を確認する

1）電話機の受話器を上げ、#⑨※②⑤を押します。

2）受話器を戻します。

※ フッキング完了時間の設定は、アナログポート設定ユーティリティでは設定できません。

フッキング制御の設定表示

HG Ver2にて上記の機能を追加したことにより「フッキング制御」の設定を液晶パネルに表示する方法が変更されました。

設定

■設定を確認する

1）電話機の受話器を上げ、#⑨※②⓪を押します。

2）受話器を戻します。

【注意】

●設定を変更すると接続する電話機が誤動作する可能性がありますので、可能な限り設定を変更しないでください。

アナログ新機能設定表示（AT コマンド）

ＴＥＬポートの設定を表示するコマンドはAT\T↵ですが、追加したアナログ機能については表示されません。

追加したアナログ機能も含めた設定を表示するには、以下のコマンドを入力します。

書式：AT\T６↵

追加・変更したAT コマンドの一覧

ATD　発信（通信モードは、G1レジスタの設定で決まります）

機能　データポートから発信します。

書式　ATD[$][/]S=n
[*サブアドレス][+ユーザデータ]↵

$　着信課金要求による発信を行います（Dchパケットのみ）

/　メール送信を行います。

S=n　短縮ダイヤル（n=0～9）に登録されている電話番号、サブアドレスへ発信します。

*　サブアドレスを指定して発信する際に、サブアドレスの前に入力します。

+　ユーザデータを指定します。

入力例　ATDS=0↵
短縮番号0に登録した番号で発信
ATD/S=1+Hello ↵
短縮番号1に登録した番号へメール送信

AT\T6　TELポートの設定表示

書式　AT\T5↵

AT&Z　データポートの短縮ダイヤルを登録

機能　データポートの短縮ダイヤルを登録します。
電話番号および、サブアドレスを省略すると（AT&Zn=）短縮ダイヤルを消去します。

書式　AT&Zn=xxx[*yyy]↵

n　短縮番号（0～9）
短縮番号を省略すると、短縮番号0となります。

xxx　電話番号（15桁まで登録できます）

yyy　サブアドレス
19桁まで登録できます。また、サブアドレスは、省略できます。

入力例　AT&Z0=1112222↵
短縮番号0に1112222を登録
AT&Z1=3334444*56↵
短縮番号1に3334444*56を登録
AT&Z0=↵
短縮番号0を消去

AT&Z? 短縮ダイヤルの設定表示

機能　データポートの短縮ダイヤルの設定を表示します。

書式　AT&Z?↵

変更したレジスタ

C26　無通信監視時間（単位：分）

機能　設定した時間無通信状態が続くと、通信を切断します。
なお、0は監視しません。**[初期値]**

書式　ATC26=n↵

従来機能では、V.110モード時のみでしたが、同期PPPやMPでも有効としました。パソコン側からのデータのみの監視です。

追加したレジスタの一覧

C51　MP通信中のアナログ機器使用の設定

機能　MPによる2つのBチャネルを使ったデータ通信中にアナログ機器の発信または着信があったとき、データ通信のBチャネルを1本にして、アナログ通信を行うかどうかの設定をします。

書式　ATC51=n↵

n=0　TELポートからの発着信を禁止します。

n=1　TELポートからの発着信を許可します。**[初期値]**

C52　MP発信時の接続回線数の設定

機能　MPによる発信時、最初に接続するBチャネル数を設定します。

書式　ATC52=n↵

n=0　最初にBチャネル1本だけ(64Kbps)で接続します。

n=1　最初にBチャネル2本(128Kbps)で接続します。**[初期値]**

C53　Throughput BOD 機能使用方法の設定

機能　MPによる通信中、自動的にBチャネルの追加・削除を行うかどうかを設定します

書式　ATC53=n↵

n=0　Bチャネルの追加・削除はしません。**[初期値]**

n=1　Bチャネルの追加・削除をします。

C54　Bチャネルの追加を行う場合の回線利用率（ボーダーライン）

機能　回線利用率がボーダーライン以上になったとき、Bチャネルを追加します（単位：パーセント）。

書式　ATC54=n↵

n=0～100　**[初期値80]**

C55　Bチャネルの削除を行う場合の回線利用率（ボーダーライン）

機能　回線利用率がボーダーライン未満になったとき、Bチャネルを削除します（単位：パーセント）。
ただし、0の場合は削除されません。

書式　ATC55=n↵

n=0～100　**[初期値0]**

C56　Bチャネルを追加・削除後の最小保持時間（単位：10秒）

機能　Bチャネルを追加後、最小保持時間が経過するまではBチャネルを削除しません。
Bチャネルの削除後、最小状態保持時間が経過するまではBチャネルを追加しません（単位：10秒）。

書式　ATC56=n↵

n=0～255　**[初期値15(2分30秒)]**

C57　BACP、BAPプロトコルIDの設定

機能　BACPおよび、BAPのプロトコルIDを設定します。

書式　ATC57=n↵

n=0　旧プロトコルIDを使用します。**[初期値]**

n=1　新プロトコルID（RFC2125準拠）を使用します。

電話機の操作方法の一覧

操作は、HGが接続されている電話機の受話器を上げ、以下に挙げるキーを押して行います。

発着信履歴の設定

■履歴を記録しない。

１＊４０

■発信履歴のみ記録する。

１＊４１

■着信履歴のみ記録する。

１＊４２

■発信履歴、着信履歴ともに記録する。

[**初期値**]

１＊４３

電話機の方式の設定

■プッシュ式。[**初期値**]

９＊８０

■ダイヤルパルス式

９＊８１

発信者番号優先着信機能の設定

■発信者番号優先着信をしない。[**初期値**]

９＊９０

■発信者番号優先着信をする。

９＊９１

発着信履歴の表示（液晶パネル表示）、発信、登録および、消去方法

１）発信履歴の表示

＃＃１

２）着信履歴の表示

＃＃２

３）留守中着信履歴の表示

＃＃３

４）次の履歴を表示（液晶パネル表示）

発着信履歴を液晶パネルに表示しているとき、＊を押します。

５）液晶パネルに表示中の発着信履歴（電話番号）で発信

発着信履歴を液晶パネルに表示しているとき、＃を押します。

６）液晶パネルに表示中の発着信履歴を短縮ダイヤルに登録

発着信履歴を液晶パネルに表示しているとき、「n」＃を押します。

「n」とは、登録する短縮番号です。

７）発着信履歴の消去

＃＊９９０

株式会社 アレクソン

オンラインVer２追加機能説明書
平成九年六月十八日　第一版